

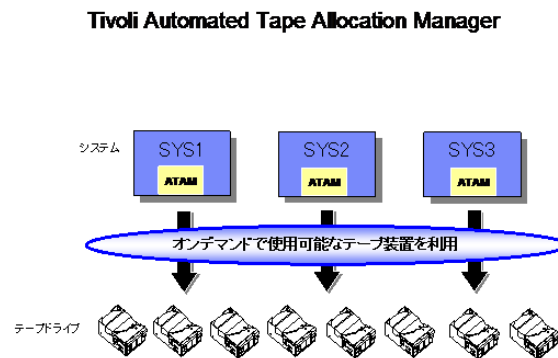
# IBM Tivoli Automated Tape Allocation Manager for z/OS



Automated Tape Allocation Manager for z/OS V2.1 は、テープ・リソースの無人状態での自動共有を実現することで複数のイメージ間での使用を最適化し、テープ装置のアベイラビリティの問題を直接解決します。Automated Tape Allocation Manager では、特定のイメージ専用のテープ装置を用意する代わりに、複数のイメージからの要求に応じて、既存のテープ装置をオンデマンドで利用できるようにします。その結果、磁気テープ・ドライブをアイドル状態にすることなく、最大限利用できるようになります。これにより、テープ関連のボトルネックを削減し、磁気テープ・ドライブを必要とする未処理のジョブ要求を最小限に抑えることができます。

既存の磁気テープ・ストレージ装置を複数のイメージ間で共有できるため、次のような効果があります。

- テープ・ハードウェアの ROI (投資収益率) が向上します
- バッチ処理の遅延が軽減します
- 既存の装置の利用率が向上します
- 操作のオーバーヘッドが減少します



機能、説明、利点		
機能	説明	利点
シスプレックス内のすべてのイメージによるテープ装置の共有化	特定のイメージ専用のテープ装置が必要なくなります	テープ・リソースの利用率が向上します。利用可能な磁気テープ・ドライブをあらゆるジョブに割り当てることができます
TCP/IP ベースの通信インフラストラクチャーの提供	オペレーターが T 内のすべてのイメージからグローバルなクエリーと制御コマンドを実行できます	オペレーターは適切な情報を入力し迅速に制御を行えます
サード・パーティー製品との並列実行	ATAM で追加テストを実行しながら、既存のテープ管理ソフトウェアも並行して使用できます	マイグレーションが簡素化されます